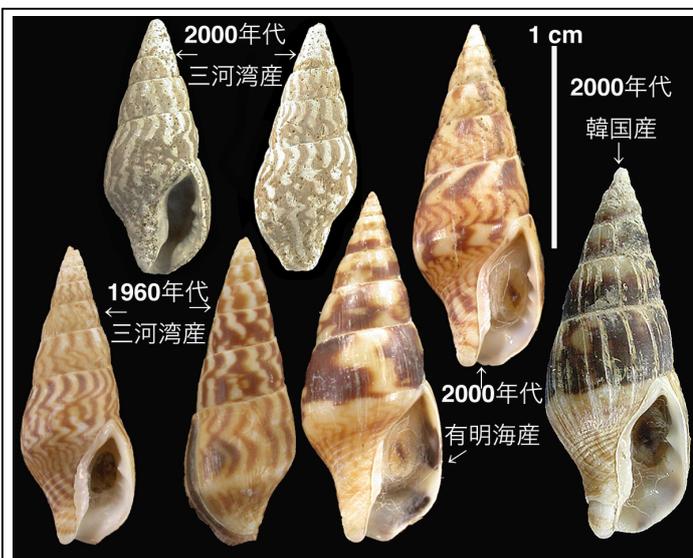


マルテンスマツムシ *Mitrella martensi* (Lischke)

【選定理由】

本種は内湾の泥質干潟からアマモ場周辺の潮下帯にすむ。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は 1960 年代には三河湾奥（渥美湾）の干潟で普通に採集された（愛知県科学教育センター、1967）が、近年では死殻もほとんど発見できない（藤岡・木村、2000）。最も近年における現生個体の死殻採集報告（知多湾南部で採集）は 1970 年代まで遡らなければならない（中山、1980）。現在残されている生貝標本は 1960 年代採集であり、50 年以上生息が確認されていない。以上のことから、今回県内では絶滅したと評価された。



【形態】

殻長約 15 mm の長い紡錘型で、十分に成長すると殻口は肥厚し、内唇にいぼ状突起を生ずる。殻表は黄褐色で、不規則な褐色の縦帯をもつ。現在有明海に生息している個体（図右から 2, 3 個体目）は韓国産個体（図右）と同様、殻は大型で殻表の模様が大きく、模様の形や色彩に変異が大きい。かつて三河湾に生息していた個体（図左下）は小型で細長く、殻表の模様も細かく色彩変異も少ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では絶滅し、現在死殻でさえ採集できる場所はほとんどない。現生個体の死殻採集報告も 1970 年代が最後である（中山、1980）。2000 年代にも蒲郡市三河大島沖（図左上）や汐川干潟で死殻が少数採集されたが、生時の色彩は全く残されておらず、現生個体の死殻ではなく化石の可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布し、日本では北海道南部から九州に分布する（福田・他、2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内より絶滅した。減少の理由は【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏・久保弘文・木村昭一、2012. マルテンスマツムシ, p. 65. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
愛知県科学教育センター、1967. 愛知の動物. 222pp.  
藤岡えり子・木村妙子、2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, (10): 31-39.  
中山 清、1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10-12. 名古屋貝類談話会.

(木村昭一)